

七条中学校だより6月20号

京都市立七条中学校

令和8年6月25日

発行:校長 林 秀雄

徳を積むとは

「徳を積む」という言葉を聞いたことがありますか。徳を積むとは、簡単に言えば「人のためになるよい行いを積み重ねること」です。特別なことをする必要はありません。誰かを思いやる小さな行動の積み重ねが、徳を積むことにつながります。

最近、スポーツ界で活躍する選手たちの話から、この「徳を積むこと」の大切さを考えさせられました。サッカー日本代表の鎌田大地選手に関するエピソードです。試合中、選手たちはコートサイドに置かれた給水用ボトルで水分補給をします。多くの選手は、一秒でも早くプレーに戻ろうとして、飲み終えたボトルをそのまま置いたり、倒れたままにしたりすることがあるそうです。しかし、鎌田選手は飲み終えたボトルを必ず立てて戻していたと言われています。それは、次に使う選手が手に取りやすいように、すぐに飲めるようにという思いやりからでした。ほんの数秒でできる行動です。誰かに注目されるわけでもありません。しかし、その行動には「次の人のために」という温かい心が表れています。

また、メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が、グラウンドに落ちているごみを自然に拾う姿もよく知られています。試合中や練習中であっても、ごみを見つけるとさっと拾う。その姿は世界中のファンや選手から称賛されています。大谷選手は「運を拾う」という考え方を大切にしていると言われています。しかし、それ以上に大切なのは、自分だけではなく周りの人が気持ちよく過ごせる環境をつくろうとする姿勢です。

鎌田選手のボトルを整える行動も、大谷選手のごみ拾いも、どちらも派手なプレーではありません。ゴールを決めたりホームランを打ったりする場面ほど目立つものではありません。しかし、一流の選手ほど、誰も見ていないところで人のために行動していることに気づかされます。

では、私たちの学校生活ではどうでしょうか。

- ・自分から気持ちよくあいさつをする。
- ・廊下や教室のごみを拾う。
- ・使った椅子や机を整える。
- ・次の人のために道具を元の場所へ戻す。
- ・困っている友達に声をかける。
- ・履物を揃える。

こうした行動も、すべて徳を積むことにつながります。

「誰かが見ているからする」のではなく、「誰かのためになるからする」。その心が大切なのです。徳とは、目には見えない心の財産です。一つ一つは小さなことでも、毎日積み重ねることで大きな信頼となり、自分自身を成長させてくれます。七条中学校の皆さんも、鎌田選手や大谷選手のように、「次の人のために何ができるか」を考えて行動してみてください。その小さな積み重ねが、学校をより温かく、より素晴らしい場所にしてくれると信じています。



本日の放課後の過ごし方について

本日は支部研修のため、一部のクラスを除き、昼食後に下校となります。また、部活動もありません。普段より早い時間から家庭や地域で過ごすこととなりますが、時間の使い方を工夫し、有意義な午後を過ごしてほしいと思います。特に次のことを心掛けてください。

- ・交通ルールを守り、安全に下校する。
- ・寄り道をせず、速やかに帰宅する。
- ・家庭学習や読書などに取り組み、計画的に時間を使う。
- ・外出は、必ず家庭の人に伝え、迷惑をかけないようにする。
- ・公園や商業施設等で大声を出したり、他の利用者に迷惑となる行動をしたりしない。
- ・SNSやインターネットの利用については、情報モラルを意識し、トラブルにつながる行為をしない。
- ・不審者や危険な場面に遭遇した場合は、その場を離れ、家族や警察、学校に連絡する。

早く下校できる日はうれしいものですが、七条中学校の一人として地域の方々から見られていることを忘れず、節度ある行動を心掛けてください。一人ひとりが安全で充実した時間を過ごし、明日も元気に登校してくれることを願っています。